

- 管内 石狩管内
 ■分類 避難訓練 危険対応能力 防災訓練 その他()
 ■教育課程 教科() 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
 ■校種 小学校(低) 小学校(中) 小学校(高) 中学校 高等学校
 ■取組のポイント

- 防災避難についての事前学習に重点を置くことにより、生徒の主体的な態度と危機対応能力の育成を図った。
 ○ 抜き打ちの防災避難訓練を実施することにより、非常事態発生時における生徒の実践力の向上を図った。

取組の実際

ねらい

- 地震や火災、津波などの非常事態発生に備え、生徒の防災意識を高めるとともに、生徒と教職員が安全かつ迅速に避難行動を取ることができるようにする。

内容

1 生徒の主体的な態度と危機対応能力の育成を図った事前学習

防災避難訓練に先立ち、各HRにおいて、共通の資料をもとに、次のような事前学習を行った。

○ 災害の特性の紹介

近年、国内で起こった地震や火災、津波など実際の事例を挙げ、それぞれの災害の特性について紹介した。

○ 災害発生時の安全措置と防災避難

地震や火災、津波などの非常事態時に発生しうる危機について、生徒のグループ協議によって予測させた後、それぞれの災害特性に応じた安全措置が講じられるよう、取るべき行動や危険回避の方法、緊急時の避難場所などについて指導した。

2 実践力の向上を図った抜き打ち訓練の実施

防災避難訓練は、日時や災害の種類について、生徒に予告なしで実施した。

○ 抜き打ちの防災避難訓練

避難訓練は、「地震が発生し、その後ボイラー室から出火、教員による消火活動では収まらず、全校生徒避難」の設定で行われた。突然の非常ベルや教員の指示に対し、生徒は、非常事態発生時に自ら取るべき行動を迅速かつ正確に遂行した。

成果と課題

- 防災避難に関する事前学習に重点を置いたことにより、生徒は、次取るべき行動を予測しながら避難できたことで、避難完了時間が、昨年度より短縮された。
 ○ 防災避難訓練の日時や災害の種類を予告しなかったことで、より現実に近い実践的な防災訓練を行うことができた。
 ● 安全確保後の下校方法や保護者への引き渡しについて、更なる検討が必要である。

緊急避難について	
避難上の注意	1 慌てない 任我のものになる。避難中に任我をすれば、命取りとなる。また、必要な情報を聞き逃すこともあるので注意。 2 ししゃべらない 呼吸の確保 火災の場合、煙を吸い込み呼吸困難になる。また、熱気を吸い込み、のどを火傷することもある。ハンカチや、タオル、上着等で口を覆うこと。姿勢を低くすることも、煙を回避する手段の一つ。 3 靴のかかとを踏まない 後ろの人に踏まれば、避難中に大事故につながる。自分の身だけでなく、他人に迷惑をかけることもあるので注意。 4 避難誘導する教員の指示に従う。 5 けが人が出た場合、周囲に助けを求める。
避難後	1 避難の完了を担任に報告。 2 避難後は、絶対に戻らない。
地震の場合	1 身体保護 頭部の保護を優先する。近くに机があれば、その下へ頭を隠す。無い場合は、靴、上着、自分の手などで守ること。抜き打ちや、震がガス、本棚など、倒壊物や落下物に十分注意する。 ※地震は、揺れ等が緊急地震速報が入ることもある。慌てずに行動すること。 2 脱出路の確認 地震の影響で、扉が開かなくなることもある。 3 火の始末 理科の実験中の燃焼装置などが火気を帯びている場合は、すぐに消し、ガスの元栓も閉める。万一、火災が発生した場合は、教員に報告、初期消火をおこなうが、無理はしない。 4 緊急放送の確認 緊急放送は、しっかりと耳を澄ませて聞くこと。避難経路や、避難場所を聞き逃さないこと。
火災の場合	1 緊急放送の確認 地震以上に大切。誤った情報による行動は、死を招きます。周囲のものを確認することも大切。 2 戸締まり 地震時と違い、窓や教室のドアを閉める。これは、延焼や、煙の流出を遅らせる。閉める際は、中に人がいないことを確認する。防火扉も閉じ。なお、外から中の様子が見えるようにカーテンは開ける。

